

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■126■

先日、みどり市の富弘美術館を初めて訪れた。

私の母が星野富弘さんの詩画が好きで、茨城県の実家にはあちこちに星野さんの作品が飾ってある。

子どもの頃に母の薦めで星野さんの著書「愛、深き淵より。」を読んで感銘を受けた記憶もある。

群馬県に住むようになって、渡良瀬川沿いの道をドライブしたりサイクリングで通ったりする

度に、富弘美術館に寄りたいと思っていた。でも、その度に時間の余裕がなくて通り過ぎてしまっ

た。

星野富弘さん追悼

4月末に星野さんが亡くなったというニュースを知り、改めて彼の人生の歩みと作品をしっかりと味わおうと富弘美術館を

前向きに生きていく

訪問した。

活発な青年だった星野さんが、頸髄損傷で手足の自由を失ってから、口

に筆をくわえて文や絵をかき始めるまでの葛藤や苦悩はとても大きかった

と思う。そんな星野さんを支え続けたご家族のご苦労や心情を思つと泣けてしまった。

私も年を重ねて子を持つ立場になっている。星野さんとご家族を襲った不幸が、もしわが家に降りかかっていたら自分を受け止めることができるだろうか。そんなことを考えながら作品を見て回った。

館内に展示されている星野さんの作品は、年代

折れてしまった
しかし菜の花は
そこから芽を出し
花を咲かせた
私もこの花と
同じ水を飲んでい
同じ光を受けてい
強い茎になろうと

数ある作品の中で、私
が一番好きなのは「菜の
花」（1975年）だ。
元気づけたのは、小さな
菜の花だった。

を追うごとに描写される
草花の線と色使いが細やか
になり、技術が向上し
てきたことが分かる。口
だけよくもこんなに繊
茎が簡単に
私も嫌なことがあ
つても周囲のせい
にしたり、諦めたりせ
たいと思う。
星野さんありがとうご
さいました。ご冥福をお
祈りいたします。

肥後秀明（ひご・ひであき） 1969年生まれ。茨城県出身。東京大経済学部卒。92年に日本銀行入行後、金融機構局考査企画課長兼上席考査役、金融機構局考査運営課長兼上席考査役などを

経て2022年4月から現職。

